

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	株式会社 いきがいクリエーション	代表者	田村浩介	法人・ 事業所の 特徴	私たちは、すべての人たちの「いきがい」を応援します。いきがいは人それぞれ。だからこそ、ひとりひとりと寄り添い、考え続けます。
事業所名	小規模多機能ホーム いきがいのまち	管理者	上地千春		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	人	4 人	人	1 人	2 人	人	4 人	人	人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	・新規ご利用者の具体的な個別支援を共有する。 ・コミュニケーション不足を改善する為にも、新規が入った場合、隙間時間でミーティングを行い直接情報交換する。 ・ケアプランも目を通したのかのサインをする。 ・一人ひとりにあった支援の把握を理解して、より良いサービスを心掛ける。 ・家族の方への不安や表出について、介入できるように対応していきたい。	・新規ご利用者の個別支援の共有をミーティングを通して共有している。 ・コミュニケーションを通して信頼関係を築く事の重要性に気付いている。 ・改善計画に取り組んでいる。	・自己評価は個々の人格や考え方認識などで甘くなったり、厳しくなったりします。職員全員が意見を言える環境が素晴らしいと思います。 ・スタッフがコミュニケーションをとることを心がけている様子がうかがえた。	・今後もグループラインで情報共有を継続していく。 ・ご利用者本人による拒否が強い場合の接し方や話術の勉強会、ご家族やご利用者とのコミュニケーションの上手なやり取りを学ぶ。 ・初回のモニタリングではケアマネ以外にもスタッフが対応してご利用者やご家族の表出等図っていく。 ・連絡ノートで現状の伝達をしていく。 ・スタッフが担当しているご利用者との関わりを強める。
B. 事業所のしつらえ・ 環境	・誰が来ても訪問しやすい場所だなあと考えるような雰囲気づくり、環境作りを継続していく。 ・ハンドメイドのお店や駄菓子屋を継続していけるようにご利用者を支援していく。 ・ご利用者が、子供達や地域の方と触れ合えるように、駄菓子屋の売り場所を検討していく。	・ハンドメイドのお店を通して地域の子供や地域の方々との交流を深める機会が増えた。 ・前回の計画に沿って取り組みを継続している。 ・ハンドメイドのお店や駄菓子屋を通じて少しずつ交流はできているが課題は多い。	・過ごしやすい場所だと思います。 ・オレンジカフェで伺いますがスペースに課題があると感じました。	・地域の方々が気軽に立ち寄れる場所を継続していく。 ・オレンジカフェ開催場所を自治会に相談していく。 ・課題解決に向けてできることから取り組んでいく。 ・もう少しわかりやすく、外に売り場を出すなど検討する。
C. 事業所と地域の かわり	・ご利用者や来所した方々が、気持ちよく笑顔になれるような環境作りを心掛ける。 ・今後も自治会のイベントに参加して交流を深める。 ・ご家族や地域の方々との交流を増やしていく為に、イベント(まつり)等検討していく。 ・自治体から情報をもらいながら参加していく。	・コロナ禍に比べて自治会や地域との繋がる機会が増えてきた。 ・改善計画通りに取り組んでいる。 ・久保田自治会、諸見里自治会への連絡会参加。 ・地域活動等の情報が少なかった。	・受け入れる自治会の受け入れ姿勢対応力も重要です。交流を深め、理解を深め継続することが重要と思います。 ・自治会の福祉連絡会参加は続けてほしい。	・事業所での体操教室やサロン等に参加できるように対応していきたい。 ・ご家族とのコミュニケーションをとり情報を得るとともに、地域における活動等を把握していく。 ・各担当のご利用者の地域活動を把握する。 ・地域との関わりを強化して地域行事に参加していきたい。 ・その他の自治会連絡会議参加(ご利用者の住まいがある自治会)
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	・諸見里自治会だけでなく、他事業所の行事を情報収集し、その地域のご利用者を参加させていく。 ・いきがいのまち新聞を継続して発行していく。 ・がんじゅうポイントの普及、活用。 ・地域一体となって提供するSNSの発信。	・自治会や地域との交流に少しずつ取り組んでいる。 ・地域の方々が気軽に立ち寄れる雰囲気づくり。 ・新聞配布しながら地域の声聞き取る。 ・近所を散歩 ・福祉連絡会参加は数を増やす	・広報誌を自治会へ置く、利用者の近所の方とのコミュニケーションを仲介するなど事業の役割を期待します。	・自治会の体操教室やサロンに参加できるように対応していきたい。 ・スタッフ間で案を出し合っていく。 ・ハンドメイド等のワークショップ ・ご利用者の関係機関との連携を引き続き継続。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	・各自治会の情報収集を行いサロン等に参加していくことを検討する。 ・オレンジカフェの継続 ・ペットサロンやネイルサロンの受け入れ。	・定期的に会議が行えている。	・民生委員さんや地域の方々も参加されてよい会議だと思います。ご利用者さんや家族さんの参加は難しいようですね。 ・新聞で活動のがわかってとても良いと思います。 ・運営推進会議内での委員の交流、自治会長を委員として採用	・事業所の場所が分かりやすいように看板設置 ・委員の意見や案を取り入れる ・スタッフが自施設の特徴を理解する。 ・計画を継続して取り組む
F. 事業所の 防災・災害対策	・BCP策定をもとに、スタッフ間で役割を共有し体制を整える ・事業所内だけでなく、地域住民と一緒に防災訓練を行ったり、勉強会を実施していく。 ・公助な対策と支援SNSの活用。	・職場内外の研修参加 ・研修に参加したスタッフの研修内容報告 ・防災訓練の継続	・事業所の防災計画や訓練の報告をお願いします。 ・災害時の避難やその後のBCP確保は福祉事務所の人員だけでの対応は困難に思えます。地域住民との共助が重要と思います。 ・西部地区は、火災に対する対策が必要と聞きました。調理等のプログラムはありますか？その時は火災をおこす可能性がないように工夫していますか？ ・防災の体制については、地域のみなさんと一緒に取り組めたらいいですね。ご利用者様についても住宅から持ち出す非常用持出し袋の声かけ等できたらと思います。 ・各自治体の訓練に参加してみてもどうか	・地域との防災避難訓練を計画し実施できるように取り組む ・訓練後の振り返り改善点を話し合う ・各地域の情報収集